

科 目 名		学 年	
社会科学Ⅱ: Social ScienceⅡ		5MB	
教 員 名		高橋正和: TAKAHASHI Masakazu	
単 位	授 業 時 間	科 目 区 分	授 業 形 態
1	100分×15回	必修	講義・前期
学 修 単 位		○	
授 業 概 要	本書は、フロイト派心理学者として著名な筆者が、精神分析的な手法をもって社会や歴史の核心に肉薄する、きわめてユニークかつ鋭い文明批評である。日本とアメリカの対立相克、あるいは依存愛着の関係を精神分析すると、驚くような帰結が引き出される。歴史と心理学という異次元の学問をつなぐスリリングな試みである。		
到 達 目 標		評 価 方 法	
1. 心理学の基本的枠組みを理解できる。 2. 日本とアメリカの歴史的關係を説明できる。 3. 日本人の行動パターンや心理的傾向について把握できる。 4. 個人と集団の共同幻想について説明できる。		中間試験35%、期末試験35%、レポート15%、自学自習15%によって評価する。	
学 習 ・ 教 育 目 標	(F)③④	JABEE基準1(1)	(a)
授 業 計 画	回	項 目	内 容
	第1	はじめに	心理学と歴史学
	第2	第1章	アメリカの子分としての日本
	第3	第2章	屈辱感の抑圧のための二つの自己欺瞞
	第4	第3章	ストックホルム症候群
	第5	第4章	嘘のプライド
	第6	第5章	平和主義の欺瞞
	第7	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。
	第8	第6章	アメリカ文化の普遍性
	第9	第7章	和を乱す必要
	第10	第8章	東京裁判とアメリカの病気
	第11	第9章	侵略と謝罪
	第12	第10章	愛国心について
	第13	第11章	日本がアメリカを赦す日
	第14	補論	個人の分析と集団の分析
第15	まとめ	全体の学習事項のまとめと授業評価アンケート調査を行う。	
自学自習の内容	レポートを課す。		
関連科目			
教科書	「日本がアメリカを赦す日」 岸田秀(文春文庫)		
参考書			
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う。		
副担当教員			
備考			